

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	人文科学概論（コミュニケーションを含む）	
科 目 担 当 者	平瀬芳美	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	鍼灸臨床における医療面接	
使 用 参 考 書	なし	
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。定着度の確認は、通常授業の中での質疑応答によって行います。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、主にコミュニケーションについて学びます。 (1) 点字について(実技を含む) (2) 医療面接、接遇について(実技を含む) *コミュニケーション (3) 上記以外の内容(例:パソコンの基礎知識、文芸等) 3については、クラスの希望に基づいて実施します。	
授 業 の 展 開	授業は教科書や補助資料を中心に進めますが、あえて資料を出さない事もあります。毎回冒頭に前回の授業の確認をします。実技は、事前説明やオリエンテーションを経て実施します。なお、内容・実施順・時間配分・評価方法等は、実情に応じて変更する事があります。	
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 32時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 17	
1 人文科学概論オリエンテーション	1	
2 点字実技		
(1) 点字の必要性、用具等についての説明	1	
(2) メの字書き、数字、氏名	1	
(3) 訂正の仕方、試験解答方式等	1	
(4) 点字用郵便について	1	
3 接遇理論 *コミュニケーション(9時間)		
(1) マナーとルール、上座と下座	2	
(2) 来客対応、ノック、名刺交換	2	
(3) 湯茶接待、電話対応	2	
(4) 身だしなみ(外部講師による特別授業を含む)	2	
(5) 一般的接遇から医療的接遇へ	1	
(6) 医療面接と評価法(OSCE)	1	
5 その他	2	
6 期末試験		

後 期 < 15 週 >	後期計 15
1 医療面接	
(1) 実践編 第1章、第2章 (墨:18~55頁、DAISY:12~36頁、点:15~80頁)	4
(2) 実践編 第3章、第4章 (墨:56~69頁、D:37~44頁、点:81~102頁)	4
2 接遇実技 *コミュニケーション (5時間)	
(1) シナリオ確認	1
(2) オリエンテーション (環境認知等)	2
(3) 医療面接<導入部>ロールプレイ	1
(4) 反省、フィードバック	1
3 その他	2
4 期末試験	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	社会科学概論	
科 目 担 当 者	河原塚 由紀	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	なし	
使 用 参 考 書	なし	
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。なお、前期、後期ともに習熟度を確認するため中間期チェックを行う予定ですが、これは評価に含まれません。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な福祉を中心とした社会科学諸分野の基礎的知識について学習し、現代社会の諸問題を総合的に把握し、卒業後の就労時に役立つ知識を身に着けることを目的とした授業です。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業は事前に配布した資料をもとに進め、既習内容については発問を交えて知識の確認をします。なお資料については大きな単元ごとにまとめたものを希望媒体で配布します。	
自己学習の進め方	配布するまとめ資料はあくまで抜粋ですので、講義にしっかり耳を傾けわからない用語などは授業中に質問するなどして確認して下さい。また普段からニュース等をチェックするなど学習内容にかかわる項目に興味をもつことでより理解がより深まりますし、また卒業後に活用できる知識として身に着くことと思います。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 32時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 17	
高齢者福祉について		
・高齢化社会とは	1	
・少子化問題など	1	
高齢者に関するその他の制度について		
・後期高齢者医療制度	3	
・その他	1	
中間期チェック	1	
中間期チェックの講評	1	
介護保険について		
・制度の概要	3	
・ケアマネージャー	2	
・在宅サービスの種類	3	
期末試験		
期末試験の講評	1	

後 期 < 15 週 >	後期計 15
介護保険について	
・施設サービスの種類	1
・介護保険改正のポイント	1
・その他	1
国民年金について	
・年金の概要	3
・老齢基礎年金	2
中間期チェック	1
中間期チェックの講評	1
・障害基礎年金	2
・遺族基礎年金	1
・その他の年金制度	1
期末試験	
期末試験の講評	1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	自然科学概論	
科 目 担 当 者	武田和男	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・30時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	印刷されたプリントや教室実験・ビデオ視聴	
使 用 参 考 書	「仮説実験授業」「永遠の生命」「発明発見物語」「歌う生物学」その他	
評 価 方 法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	科学史・医療の歴史を通して、自然と生命の奥深さを知り、自然理解を深め、理性の価値を認識し、豊かな自然観を高めるよう展開します。	
授 業 の 展 開	毎時間印刷され用意されたテキストの音読による理解と、ビデオ教材の視聴、実験により授業を展開します。	
自 己 学 習 の 進 め 方	毎時間の授業に集中し考えをまとめ、試験前に総合的に復習してください。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	32時間
前 期 < 17 週 >	前期計	17
生物と細胞		2
DVD驚異の小宇宙人体（生命誕生）		1
細胞とその社会		2
DVD驚異の小宇宙人体（骨格筋肉）		1
細胞「私」を作る60兆個の力		2
DVD驚異の小宇宙人体（消化吸収）		1
永遠の生命 He1a細胞		3
笑いと免疫力		2
歌う生物学1		2
テスト対策		1
前期テスト		
後 期 < 15 週 >	後期計	15
インフルエンザとウイルス		2
ウイルスの謎を解いた人々		2
筋肉の動く仕組みを探る		2
石炭酸で傷口を洗う（消毒法）		1
華岡青洲		1
伝染病の原因を探せ		2
沈黙の春		1
北海汚染		1
歌う生物学2		1
遺伝子はダメなあなたを愛している		1
テスト対策		1
後期テスト		

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	保健体育	
科目担当者	新 八吉	
単位数・年間時間数	1単位・30時間	
授業の方法	実技	
使用教科書	なし	
使用参考書	なし	
評価方法	観察記録法により評価します。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な健康・安全や身体運動について学び、健康の保持増進のため運動を実践し、これを施術に応用する能力と態度を習得する授業です。	
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の復習をし、また授業では各種目の完成を目指します。毎回習得度を確認し、不十分であれば繰り返し練習することで理解を深めます。	
自己学習の進め方	授業でスムーズに身体を動かすことができるように、またケガの予防のため日頃より軽くトレーニングを行ってください。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 32時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 17	
体育ガイダンス	1	
体力測定	1	
ストレッチ体操	3	
陸上競技	4	
球技	4	
フライングディスク	3	
講義	1	
後 期 < 15 週 >	後期計 15	
陸上競技	2	
カローリング	4	
球技	3	
筋力トレーニング	2	
レクリエーション	2	
ストレッチ体操	1	
講義	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	解剖学Ⅰ（運動学を含む）	
科目担当者	藤原 太樹	
単位数・年間時間数	4単位・120時間	
授 業 の 方 法	講義	
使用教科書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能 解剖学 第2版	
使用参考書		
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験（評価）を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な人体諸器官の位置・形態・構造とその運動について学び、これを施術に応用する能力と態度を修得することを目的とします。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。教科書の内容に沿って進め、模型観察と身体運動を積極的に行っていただき、理解を深めていきます。	
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、提示される課題に取り組んで下さい。授業中における模型観察の時間が不十分だと感じた場合には、放課後等の基礎医学教室開放時間を活用して模型観察を行い、授業内容の理解と問題解決に努めましょう。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 128時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 68	
1. 人体の構成（区分と方向）	2	
2. 運動器系（骨核、各関節）		
①総論（うち、運動学 2時間）	*運動学 2	
②脊柱	8	
③胸郭	4	
④上肢	8	
⑤下肢	8	
⑥頭蓋	8	
3. 運動器系（筋）		
①総論	2	
②体幹とその運動（うち、運動学 5時間）	*運動学 10	
③上肢とその運動（うち、運動学 5時間）	*運動学 12	
復習、その他	2	
中間試験		
中間試験 講評	1	
期末試験		
期末試験 講評	1	

後 期 < 15 週 >	後期計 60
3. 運動器系（筋） ※前期続き	
⑤下肢とその運動（うち、運動学 5時間） *運動学	10
⑥頭頸部とその運動（うち、運動学 5時間） *運動学	8
4. 神経系	
①総論	2
②中枢神経	10
③伝導路	6
④末梢神経	10
基礎運動学	
①運動の基礎（てこと滑車） *運動学	4
②体の重心と姿勢 *運動学	4
復習、その他	4
中間試験	
中間試験 講評	1
期末試験	
期末試験 講評	1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印



令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	解剖学Ⅱ	
科 目 担 当 者	藤原太樹	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能 解剖学 第2版	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 解剖学	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	人体の構成を理解し、各器官の形態や構造を学び、統一体としてのつながりを学ぶ。人体を扱う実際の現場に必要な知識を習得することを目的とする。 人体を扱う実際の現場に必要な知識を習得することを目的とする。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。教科書の内容に沿って進め、模型観察と身体運動を積極的に行っていただき、理解を深めていきます。	
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、提示される課題に取り組んで下さい。授業中における模型観察の時間が不十分だと感じた場合には、放課後等の基礎医学教室開放時間を活用して模型観察を行い、授業内容の理解と問題解決に努めましょう。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	96時間
前 期 < 17 週 >	前期計	51
第1章 人体の構成		10
第4章 消化器系		28
第3章 呼吸器系		11
中間試験		
中間試験の講評		1
期末試験		
期末試験の講評		1
後 期 < 15 週 >	後期計	45
第5章 泌尿器系		8
第6章 生殖器系		6
第7章 内分泌系		3
第2章 循環器系		18
第9章 感覚器系		6
まとめと問題演習		2
中間試験		
中間試験の講評		1
期末試験		
期末試験の講評		1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	生理学 I	
科 目 担 当 者	加藤 麦	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能生理学第3版	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 生理学	
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。また、知識の定着や自主学習状況の把握のため、確認テストや授業内の口頭試問などを随時行いますが、単位修得に関わる評価ではありません。	
科目の概要と学習の目的	生理学は体の正常な働きについて学習する科目です。生理学 I では生理学の基礎、循環、呼吸、消化と吸収、代謝、体温、排泄について学習します。正常な体の働きを理解しているからこそ、異常(疾病)を理解することができるようになります。また、あはき施術の作用機序を理解するための基礎知識ともなる重要な科目です。	
授 業 の 展 開	授業は教科書に沿って進めていきます。国家試験に向けての重要事項を中心に教授しますが、解剖学や2年生以降で学習する臨床系の科目との関連性を意識した知識も教授します。また、単元毎に国家試験の過去問題を演習していきます。	
自己学習の進め方	授業内で教授した重要事項を中心に復習して下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	64時間
前 期 < 17 週 >	前期計	34
第1章 生理学の基礎		6
第2章 循環		15
第3章 呼吸		8
第4章 消化と吸収		4
期末試験		
講評		1
後 期 < 15 週 >	後期計	30
第4章 消化と吸収		12
第5章 代謝		4
第6章 体温		6
第7章 排泄		7
期末試験		
講評		1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	関係法規	
科目担当者	藤原太樹	
単位数・年間時間数	1単位・30時間	
授業の方法	講義	
使用教科書	医療と社会 改訂第7版	
使用参考書	配布資料	
評価方法	前期末及び後期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律及び、医療関係法規の基礎的知識について学習し、施術者として法に則した業務を行う能力と態度を習得することを目標とします。	
授業の展開	授業は教科書を中心に進めます。授業の冒頭では、前回の授業の要点を復習します。授業の終了前には、本日の授業の要点をまとめます。国家試験の過去問を使い、随時、問題演習を行います。	
自己学習の進め方	まとめ資料を配布します。この資料はあくまでもポイントを記載したものですので、教科書の関連する単元を良く読み、前後の文章などを確認しながら、復習に活用してください。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	32時間
前 期 < 17 週 >	前期計	17
1. あん摩・鍼灸における法と制度の概要		
法とは何か、あん摩・鍼灸の制度史		1
2. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律の概要		
(1) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における免許		
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許の資格要件		1
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許に関する事務など		1
ウ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の身分の消滅と復活		1
(2) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律における業務		
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の業務の独占と業務範囲		1
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の施術に関する注意		1
ウ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の施術所などに関する規制		1
エ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師施術所の名称の制限及び広告の制限		1
オ あん摩マッサージ指圧、はり、きゆうの業務の停止		1
カ 無免許営業の取り締まり		1
(3) 罰 則		
ア あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に関する罰則		1
イ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師施術所に関する罰則		1
まとめ 問題演習		4
期末試験		
期末試験 講評		1

後 期 < 15 週 >	後期計 15
3. その他の関係法規	
(1) 医療に関する法律	
ア 医療法の概要	1
イ 医師法の概要	1
ウ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要	1
(2) 社会福祉に関する法律	
ア 老人福祉法の概要	1
イ 児童福祉法の概要	1
ウ 身体障害者福祉法の概要	1
エ 知的障害者福祉法の概要	1
オ 介護保険法の概要	1
カ 老人保健法の概要	1
まとめ	5
期末試験	
期末試験 講評	1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程 1年	
科 目	東洋医学概論 I	
科 目 担 当 者	阿部 博明	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	基礎理療学 I (東洋医学概論) 改訂第 6 版 第 2 刷 日本理療教科教員連盟教科書委員会編	
使 用 参 考 書	新版 東洋医学概論 東洋療法学校協会編	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第 3 条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が 60 点以上であることが単位修得要件の 1 つです。	
科目の概要と学習の目的	東洋医学概論 I は東洋医学系学科の基礎知識として、あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの施術や今後の学習において必要不可欠な科目です。東洋医学の基礎理論(考え方、実践の仕方)を学習します。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業の終了時には本日の授業の要点をまとめます。授業は教科書を中心に進め、要点を詳しく説明します。既習内容については国家試験の過去問を使って知識の確認(形成的評価)を行います。	
自己学習の進め方	復習の時間を確保し、授業でまとめた要点を中心に知識の定着に努めて下さい。単に暗記するだけではなく、東洋医学的な意味を繋げて内容の理解にも努めて下さい。聞きなれない専門用語や独特の解釈などが多いため、理解しにくいと思います。学習する中でわからないところは曖昧にせず、教科書を見直して問題解決に努めて下さい。メールでの質問にも対応しますので、一緒に問題を解決しましょう。問題を解決すると、理解が深まり、東洋医学が好きになると思います。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 64時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 34	
ガイダンス		1
第 1 編 東洋医学の基礎理論		
第 1 章 東洋医学の意義と特徴		4
第 2 章 陰陽論五行論		
第 1 節 陰陽論		4
第 2 節 五行論		8
第 2 編 東洋医学の生理観		
第 1 章 東洋医学における人体の構成		2
第 2 章 気・血・津・液・精・神の生理		8
第 3 章 臓腑		3
まとめと問題演習		2
総括的評価(中間試験・期末試験)		
総括的評価の解答解説		2
後 期 < 15 週 >	後期計 30	
第 3 章 臓腑		14
第 4 章 経絡と経穴		6
まとめと問題演習		8
総括的評価(中間試験・期末試験)		
総括的評価の解答解説		2

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	経絡経穴概論 I	
科 目 担 当 者	山本 浩二	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	3単位・90時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	東洋療法学校協会編 新版 経絡経穴概論 (拡大版第2版)	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	各学期末に筆記試験を実施し、その得点を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点 (小数点以下は切り捨て) です。	
科目の概要と学習の目的	経絡経穴は体内と皮膚の関係に着目した東洋医学的概念です。この科目では、あん摩マッサージ指圧施術に応用するための経絡経穴の基本的事項について学習し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は教科書に沿って進め、主に十四経脈に所属する経穴361穴の部位と取穴法について要点を整理して説明します。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨床に繋がるように取穴を行います。	
自己学習の進め方	まずは十四経脈に所属する361穴を暗唱できるようにしましょう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される項目ごとの国家試験過去問題集を何度も回答して問題に慣れましょう。わからないところを自ら見つけ、質問できるように努めて下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 96時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 51	
1 経絡経穴の概要	6	
①十二正経		
②奇経八脈		
③要穴の概要 (五要穴)		
④取穴法 (骨度法・同身寸法)		
2 主な経穴 (十四経の主な経穴名と部位)		
①督脈	5	
②任脈	5	
③手の太陰肺経	3	
④手の陽明大腸経	5	
⑤足の陽明胃経	10	
⑥足の太陰脾経	6	
⑦手の少陰心経	2	
⑧手の太陽小腸経	5	
復習、その他	4	
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計 45	
2 主な経穴 (十四経の主な経穴名と部位) ※前期続き		
⑨足の太陽膀胱経	12	
⑩足の少陰腎経	7	
⑪手の厥陰心包経	3	
⑫手の少陽三焦経	6	
⑬足の少陽胆経	10	
⑭足の厥陰肝経	4	
復習、その他	3	
期末試験		

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅰ（あん摩実習）	
科目担当者	山本 浩二（助手：三浦維子）	
単位数・年間時間数	4単位・120時間	
授業の方法	実技	
使用教科書	都立文京盲学校 理療科研究会著 保健理療基礎実習 第2版	
使用参考書		
評価方法	各学期末に実技試験を実施します。試験の得点80%、授業の平常点20%で評価し、当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。	
科目の概要と学習の目的	あん摩は疾病の治療及び予防、あるいは保健の目的で、徒手により一定の方式に従って、普通衣服の上から遠心性に施術する技術です。この科目では、効果的に全身施術を行う技能を習得することを目指します。	
授業の展開	授業は配布資料に沿って進め、担当教官が全体デモを行った後、ペアになり、お互い施術をしていきます。担当教官は巡回しながら各人へ施術を行い、各人から施術を受けて習熟度の確認をします。	
自己学習の進め方	指づくりを心掛け、何人・何時間と施術ができる体力を身につけましょう。また、医療従事者として健康に留意し、清潔であるように努めて下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	128時間
前 期 < 17 週 >	前期計	68
1 導入		2
①あん摩の意義		
②施術に必要な人体各部の名称		
③授業に際しての注意事項		
2 基本手技の紹介		8
3 座位における肩背部のあん摩		20
4 側臥位における肩背腰部のあん摩		16
5 側臥位における上肢のあん摩		12
6 側臥位における頸部のあん摩		6
復習・その他		4
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計	60
7 側臥位における下肢のあん摩		14
8 腹臥位における肩背腰部、下肢のあん摩		20
復習、その他		25
期末試験		
臨床見学実習		1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ（マッサージ実習）	
科目担当者	小原恵子	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	実技	
使用教科書	保健医療基礎実習 第2版 東京都立文京盲学校 理療科研究会 著	
使用参考書		
評価方法	前期、後期ともに期末に実技試験を実施します。実技試験80%と平常点20%で評価します。平常点は授業態度で評価します。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要なマッサージ施術に関する基礎的な知識と技能について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度の修得を目的とする授業です。	
授業の展開	授業の冒頭では前回の授業の復習を行います。課題についてデモを交えて説明し、それを踏まえて利用者間で互いに施術練習をし、教官が確認・教授します。授業終了時には、床面のタルクの除去等、自習室の軽い清掃をし清潔保持に努めます。	
自己学習の進め方	日頃から繰り返し練習することによって、手掌と指先の感覚が養われ、施術者の手が作られていきます。また、皮膚上から直接触れる施術を行う者として、手指のケアに努め、清潔保持に注意します。	
授 業 内 容	( 予 定 )	合計 64時間
前 期	< 17 週 >	前期計 34
1 施術への導入		3
・マッサージの意味と変遷		
・基本手技		
2 身体各部位のマッサージ		
・前腕		13
・下腿		10
・足部		4
・復習		2
期末試験		
期末試験講評		1
見学実習		1
後 期	< 15 週 >	後期計 30
2 身体各部位のマッサージ（続き）		
・膝関節		6
・足関節		6
・肩関節		7
・頭部		4
・顔面		4
・復習		2
期末試験		
期末試験講評		1

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印



令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	はりきゅう基礎実習Ⅰ（はり実習）	
科 目 担 当 者	佐藤浩輔・小原恵子	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	3単位・90時間	
授 業 の 方 法	実技	
使 用 教 科 書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床 改訂第4版	
使 用 参 考 書	特になし	
評 価 方 法	前期、後期ともに学期末に実技試験を実施します。その成績を当該学期の評価点とします。学年末評価は前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件です。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な施術に関する知識と技能について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する授業です。	
授 業 の 展 開	安定した押手と挿管法を理解した後に、刺手として捻捻法から圧鍼法を練習します。自身の身体に刺入して筋膜への接触が感知できるようになったら、他者の身体に施鍼を行います。全身の各部位にある主な経穴への施鍼を練習します。	
自己学習の進め方	刺鍼練習器を配布します。練習器のAの位置を容易に刺入できるように自己練習に取り組んでください。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	96時間
前 期 < 17 週 >	前期計	51
1 施術への導入		
鍼施術の意義と役割、施術者としての心構え、施術室の管理	2	
鍼用具の基礎知識とその取り扱い	1	
衛生管理（手指の消毒も含む）、リスク管理（感染予防対策を含む）	3	
2 施鍼の基礎		
消毒法の実際	3	
前揉捻と後揉捻	3	
押手と刺手	3	
管鍼法と捻鍼法	3	
刺入法と抜鍼法	3	
基本手技	15	
3 身体各部への施鍼	15	
期末試験（実技試験）		
後 期 < 15 週 >	後期計	45
3 身体各部への施鍼（つづき）		
腹部への施鍼、腹部の主な経穴への施鍼	6	
上肢部への施鍼、腹部の主な経穴への施鍼	6	
下肢部への施鍼、腹部の主な経穴への施鍼	9	
腰殿部への施鍼、腹部の主な経穴への施鍼	6	
背部への施鍼、腹部の主な経穴への施鍼	6	
肩上部への施鍼、腹部の主な経穴への施鍼	6	
頸部への施鍼、腹部の主な経穴への施鍼	6	
期末試験（実技試験）		

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	はりきゅう基礎実習Ⅱ（きゅう実習）	
科目担当者	阿部博明・小原恵子	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	実技	
使用教科書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床 改訂第4版	
使用参考書		
評価方法	前期・後期ともに学期末試験（70％）と平常点（30％）で評価します。学期末試験は、実技試験を実施します。平常点は、授業に取り組む態度（観察記録法）及び各学期中に行う随時試験の結果により算出します。前期・後期の平均点を学年末評価とします。	
科目の概要と学習の目的	施術者として、安全かつ衛生的に灸施術を行うための基礎的な知識・技能の習得、医療人としての基本的な態度を養うことを目標とします。生体観察の基本及び身体各部位（常用する経穴）への灸施術に際しての注意点や過誤・副作用・事故への対処法についても学習します。	
授業の展開	授業の冒頭に、本日の授業の目的と注意事項を説明します。良く聞き、理解できないときには質問してください。正確で安全な灸施術には、繰り返しの練習が必要です。反復練習に重点を置き、習熟度を確認しながら進めます。授業進行中、不明な点がありましたら、その場で解決にできるように説明しますので、遠慮なく質問してください。	
自己学習の進め方	この実習で身につける知識・技能は、解剖学や経絡経穴概論に関連する学習内容も含まれていますので、積極的に当該科目の復習を行ってください。やけどや火災の危険があるため、授業時間以外は火を扱わない練習を行ってください。練習方法は授業のときに提示します。火を扱う練習をしたい場合には、担当教官が立ち会いますので、遠慮なく声をかけてください。	
授 業 内 容	( 予 定 )	合計 64時間
前 期	< 17 週 >	前期計 34
1. 施術への導入（オリエンテーションを含む）		4
施術者としての心構え（身だしなみ）		
施術室の管理		
衛生管理（手洗い、器具の洗浄、廃棄物の取り扱い等の感染防止策）		
リスク管理の基本（過誤・副作用・やけどへの対応・AEDの確認等）		
灸の基礎知識（用具の確認）		
2. 台座灸への点火と施灸		6
3. 線香への点火		2
4. もぐさの製造方法（DVDの視聴）		2
5. 知熱灸艾炷（母指頭大・小指頭大）のひねりと点火・施灸		8
6. 反復練習、試験対策練習		6
7. 随時試験とフィードバック		4
8. 期末試験		
9. 評価のフィードバック		2
後 期	< 15 週 >	後期計 30
10. 知熱灸（母指頭大・小指頭大）のひねりと点火・施灸の復習		2
11. 知熱灸・透熱灸（小豆大・米粒大・半米粒大）のひねりと施灸		2
12. 各種灸法（カマヤミニ・MT温灸器等）による施灸		4
13. 隔物灸（生姜・大蒜・塩）による施灸		4
14. 反復練習、試験対策練習		4
15. 随時試験とフィードバック		4
16. 期末試験		2
17. せんねん灸での治療（取穴・施灸）		6
18. 期末試験		
19. 評価のフィードバック		2

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に○印

令和2年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ（指圧実習）	
科目担当者	佐藤浩輔	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
授業の方法	実技	
使用教科書	保健医療基礎実習（東京都立文京盲学校理療科研究会著）	
使用参考書	特になし	
評価方法	前期、後期ともに学期末に実技試験を実施します。その成績を当該学期の評価点とします。学年末評価は前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件です。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な施術に関する知識と技能について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する授業です。	
授業の展開	随時、教官が被術者となり各自の技術を点検・修正しながら習熟を目指していきます。主にあん摩施術に応用可能な手技を中心に指導をします。後期には施術所を見学する機会を設け、卒後の進路計画の一助としていただきます。	
自己学習の進め方	押圧動作の安定のため母指・上肢・体幹を指圧に対応できる状態にする必要があります。日頃から基礎体力訓練として各自で「畳押し」等を継続してください。	
授 業 内 容	( 予 定 )	合計 64時間
前 期	< 17 週 >	前期計 34
指圧の基礎		2
押圧の基本動作と基本手技		2
坐位の指圧		6
側臥位の指圧		12
腹臥位の指圧		12
期末試験（実技試験）		
後 期	< 15 週 >	後期計 30
伏臥位（腹臥位）の指圧		12
仰臥位（背臥位）の指圧		18
期末試験（実技試験）		